

令和 7 (2025)年度「スチューデントファーム “近江楽座”」

A プロジェクト (学生主体型プロジェクト)

公開プレゼンテーションおよび審査会の全体講評

スチューデントファーム「近江楽座」―まち・むら・くらしふれあい工舎―は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」をコンセプトに、滋賀県立大学が全学的に取り組んでいる独自の教育プログラムです。

平成 16 年度の文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 G P) に採択され、3 年間の取組を経て、平成 19 年度から本学独自の予算で運営しています。この間、多くの地域で、地域の人たちに支えられ、活動フィールドや拠点を広げ、様々な活動を展開しています。これまでの 21 年間で延べ 470 のプロジェクトが活動し、参加した学生は延べ約 11,000 名になります。近江楽座は学生の様々な学びをつないでいく実践教育の場として学生の成長を促しており、また地域に根付いた活動として国内外から注目されています。

5 月 24 日 (土)、全プロジェクトを対象とするプレゼンテーションを行いました。今年度の応募件数は 22 件 (継続 21 件、新規 1 件) でした。審査員は 5 名のうち 3 名が学内、2 名が学外の委員で構成されました。学外委員はお二人とも本学の卒業生で、社会的活動を対象とした投資会社に勤務の方と地域資源を活用した建築や家具の設計デザインを手掛けておられる方にお願しました。審査は、最初に「安全対策 (基本)」を確認し、「1.地域志向性」、「2.発信性」、「3.実現性」、「4.発展性」、「5.未来志向性」の 5 つの視点から評価し、別掲の 21 件を本年度の「近江楽座」のプロジェクトとして採択しました。

今回のプレゼンテーションと審査会を通じて、次の 7 つのことが活動に取り組む際の共通性の高いポイントとして挙げられました。是非、活動を行う時にはこれらのことを意識して実践してください。

- | | |
|-------------------------------------|-------------------|
| 1. 自分たちがやりたいと思うことを思いっきりやる。 | [内発的な動機による自主的活動] |
| 2. 活動のビジョンやミッション、成果と課題を定期的に確認し共有する。 | [仲間との目的・目標・結果の共有] |
| 3. 近江楽座チームと地域の双方がより良くなることを目指す。 | [自立共生の関係づくり] |
| 4. チームとしてのワクワク感を高め、様々な資源を活用して実行する。 | [自由な挑戦と地道な実践] |
| 5. 近江楽座チーム同士で連携を図り、学内外の他団体とも連携する。 | [学内外のネットワークの構築] |
| 6. 多くの人に活動を知ってもらうよう努める。 | [効果的な情報発信] |
| 7. 安全管理を充分に行い、事故を防止する。無理をしない。 | [安全管理の徹底] |

今回のプレゼンテーションでは、まだ「WHY」の追求が不足している印象を受けるものが多くありました。「自分たちはなぜこのプロジェクトに取り組むのか?」、「私たちはなぜこの地域に関わるのか?」、「地域の人たちはなぜこの活動に関心をもっているのか?」「なぜこのプロジェクトを楽座として取り組むのか」…。最近活動を始めたチームは、自分たちの活動で大きく周囲の状況が変わることを実感すると思います。また長期に継続して活動しているチームも、自分たちの周りで小さな変化が常に起こっていると感じ取っていることと思います。是非、その度に改めてこれらの「WHY」を問い続け、仲間と対話してください。

今年度も 1 年間、事故のないよう活動の安全管理を十分に行い、地域に学び、自分たちなりのやりがい見出し、活動を盛り上げていって下さい。学生のみなさんの行動力や発想力を生かし、大学と地域をつなぐ担い手として活動に取り組み、近江楽座が更に発展することを期待しています。

令和 7 (2025)年 5 月 30 日

令和 7 年度「近江楽座」A プロジェクト選定委員会
近江楽座専門委員会

